

# 明日の淡海

VOL.  
36  
2022.01

～自然と人との共生をめざして～

公益財団法人 淡海環境保全財団

表紙写真：武奈ヶ岳付近の樹氷と伊吹山、白山の遠望

## COP26を 終えて

～1.5℃目標  
その「歴史的合意」が  
意味するものとは～

滋賀県地球温暖化防止活動推進センター  
事務局長が年頭にあって想うこと



響がこんな形で…。琵琶湖はこのまま『死の湖』と化してしまうのか？その時、焦りにも似た気持ちが込み上げてきた。

地球温暖化の問題に取り組んでいながら、遠い国での話、まだ先の話と、どこか他人事のように捉えていた自分にその時、気づいた。それ以来、この問題と正面から向き合い、ライフワークにすると心に誓った。

ここ2、3年は、温暖化対策にとってエポックメイキングな年です。ちょうど2年前の正月に、三日月知事から「CO<sub>2</sub>ネットゼロキックオフ宣言」がなされました。その年の秋には、菅首相が「2050年カーボンニュートラル」を宣言しました。そして、昨年秋に開催されたCOP26は、地球温暖化問題において、ひととき大きな意味を持つイベントとなりました。年頭にあたり、COP26を心穏やかに振り返ってみたいと思います。

COP26、国連気候変動枠組条約第26回締約国会議が、去る10月31日から11月13日の間、世界190カ国から約4万人が参加して、英国グラスゴーで開催されました。

近年の異常気象の頻発による相次ぐ自然災害やIPCC（国連気候変動に関する政府間パネル）の「1.5℃特別報告書」を受けて開かれた本会議は、かつてないほどの注目を集めました。

3年前、新たな温暖化対策の検討をしているさなかに、そのニュースはもたらされた。『琵琶湖の深呼吸が止まった!?』。まさか。しかし、懸念は現実のものとなった。琵琶湖の深呼吸、北湖の『全層循環』が起こらなかった。観測史上初めての事象は翌年も続いた。温暖化の影響



COP26会場のモニュメント(写真：IGES)

## COP26の盛況ぶり

会場ですら目を惹くのが、COP26の象徴とも言える、青い巨大な地球のモニュメント。この豊かな地球を守りぬこうとの気持ちが、いやが上にも高まる仕掛けです。そして世界中から集まった、会場を取り巻き、声を上げる多くの若者たち。その中には、スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリさんや、日本からはるばるやってきた若者たちの姿も見えます。地球温暖化問題は次の世代、さらにその次の世代により深刻な影響をもたらすと強く再認識させられました。

世界中から130か国以上の首脳が、英国北部、スコットランド最大の都市で、産業革命発祥の地であるグラスゴーに集結しました。会議への参加者は4万人を超え、COP21（パリ）以来の盛り上がりを見せました。COP26ではこれまでにない規模の、しかも会議の序盤に、「世界リーダーズ・サミット」が開催され、衆議院選挙後、急ぎ駆け付けた岸田首相など、世界の首脳たちがスピーチを行い、参加各国はこれまでより踏み込んだ、積極的な取組みを表明しました。議長国イギリスの狙いは、見事に成功したと言えるでしょう。



COP26入りした若者。左がグレタさん(写真：UNFCCC)

## Index

- |     |   |   |  |
|-----|---|---|--|
| 1-2 | 表紙特集 COP26を終えて<br>～1.5℃目標 その「歴史的合意」が意味するものとは～ | 4 | 日本ヨシ紀行～ヨシの風景を訪ねて～ 木曾川・長良川・揖斐川<br>滋賀県地球温暖化防止活動推進員リレートーク 本江 宗明さん                             |
| 2   | 草津市が「草津市気候非常事態宣言」!                            | 5 | タイ総領事・インド総領事・スイス領事が来館されました<br>ベトナム・ハロン湾から～藤村長期派遣専門家からの便り～<br>「しが環境キャラバン 木育ワンダーパーク」が開催されました |
| 3   | その人に聞く FFFShiga 代表、環境社会政治活動家<br>高須 海地さん       | 6 | おしらせ イベント情報  |



## 『グラスゴー気候合意』採択

そして、14日間にわたる長い議論を経て『グラスゴー気候合意(Glasgow Climate Pact)』が採択されました。最も印象的だったシーンがシャルマ議長の涙ではないでしょうか。「石炭火力発電」の取り扱いを巡って、土壇場までせめぎ合いが続きました。幾度かの修文を経て、最終的には、米・中・印・欧の調整で「石炭火力発電」の「削減」が合意文書に盛り込まれ、交渉決裂という最悪の事態は避けられました。「廃止」の文字を残せなかったシャルマ議長の無念さは理解できますが、全会一致で方向性が明確に合意された意義には大きいものがあると考えます。

また、『グラスゴー気候合意』の最大の成果は何と言っても「1.5℃目標」に全世界の国々が合意したことです。「歴史的な合意」とさえ言えます。世界の平均気温の上昇を、産業革命前に比べて1.5℃に抑えるというこの目標は、すでに世界の気温が1.1℃上昇している今日、極めて高いハードルと言わざるを得ません。その達成のためには、これからの10年が『決

定的な10年』であり、すぐさま行動を加速する必要がありますとされました。

COP26開催前の各国の温室効果ガス排出削減目標では1.5℃を超え、今世紀末には2.7℃上昇するとの試算さえあります。今年、エジプトで開催されるCOP27に向け、我が国も含め、各国がもう一段目標を引き上げ、新たな計画を策定することが求められています。



アロク・シャルマ COP26 議長  
(写真: UNFCCC)

## 「しがCO<sub>2</sub>ネットゼロ」の取組み

一方、滋賀県では、2050年CO<sub>2</sub>ネットゼロを目指して、新たな条例の制定や計画の策定に取り組まれています。また、当センターでは、出前講座やうちエコ診断、啓発事業の一層の充実とあわせ、ネットゼロのまちづくりや、若者が主体的に行動する取組み、さらには企業の脱炭素経営への支援など新たな事業に取組みを拡大しています。

今後、「2050年しがCO<sub>2</sub>ネットゼロ」を達成するためには、県民、事業者、行政など様々な主体の積極的な取組みが重要であり、当センターとして、家庭や地域、企業の脱炭素の取組みを加速できるよう邁進してまいりたいと覚悟です。

COP26を終えて、確実に一步を踏み出した温暖化対策。昨年の今頃は長く暗いトンネルの中にいるようで、将来に希望が見いだせませんでした。今年になって、ようやく温暖化

対策も薄明かりが見えてきました。今年こそは、明るい未来が見える年になれば、いや、見える年にしなければ、と決意を新たにしました。



写真: UNFCCC

## 草津市が「草津市気候非常事態宣言」!

12月17日(金)、草津市が「草津市気候非常事態宣言」を行い、市民と危機意識の共有を図るとともに、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」を同時に表明されました。

なお、市長と議長の共同宣言は、西日本では初となります。



写真: 草津市

## 特別企画

### 『2050年カーボンニュートラルの実現に向けて』 トークイベント

「草津市気候非常事態宣言」キックオフイベントとして、12月18日(土)、イオンモール草津にて「2050年カーボンニュートラルの実現に向けて」と題してトークイベントが開催されました。橋川草津市長をはじめ、市民、事業者、団体の各代表が、脱炭素に向けた取組みを市民が一丸となって進めるためのさまざまなアイデアを出し合い、活発な意見交換が行われました。特に、環境教育の重要性と、若者の意識の高さや行動力などについて意見を共有し、会場の共感を得ました。団体代表として、当センターのセンター長も登壇しました。





自然と人との共生をめざして

# その人に 聞く

Fridays For Future Shiga代表  
環境社会政治活動家

高須 海地 さん

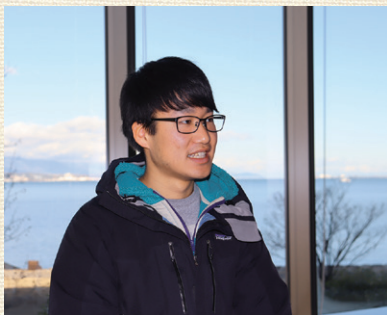
フライデーズ フォー フューチャー

Fridays For Future(FFF)、「未来のための金曜日」をご存知ですか。これは、当時15歳のグレタ・トゥーンベリさんが、2018年に「気候のための学校ストライキ」という看板を掲げ、たった1人でスウェーデン国会前で座り込みを行ったことに始まります。共感した世界中の若者が、それぞれの地で草の根運動組織「FFF〇〇」を創り、気候変動への危機を訴えてマーチなどのムーブメントを世界中で展開し、発信力を高めています。

昨年のCOP26開催日。NHKの全国ニュースで、FFFShiga代表の高須さんのスピーチが放映されました。思い返せば一昨年の秋。FFFShigaの皆さんは、当財団からの依頼に応え、温暖化防止への行動を訴える動画の制作や、シンポジウムへの登壇、県への政策提言など、若者目線で滋賀の温暖化対策に深く関わられています。高須代表に琵琶湖岸でお話を伺いました。

—NHKの全国ニュースが、高須さんのアップで始まってびっくりしました。グラスゴーに行っていたのですか？

**高須さん** 現地入りした仲間たちは相当刺激を受けたそうですが、僕は行っていません。COP26に合わせて東京でFFFジャパンのアクションを行ったのですが、そこでのスピーチ映像が流れました。



高須さん

—若い人たちが気候アクションをするようになったのは、やはりグレタさんの影響でしょうか？

**高須さん** はい、そう思います。多くのFFFのメンバーは、日常生活を普通に営んでいて、気候変動への危機感から活動を始めたという個人の集まりです。

—県内各地での気候マーチの様子はよく拝見しますが、FFFShigaとして他にどのような活動をされていますか？

**高須さん** 学校授業の一環で環境学習をしました。そしてそこで話した中学生と知事との意見交換のコーディネートや、県の「CO<sub>2</sub>ネットゼロを考える次世代ワークショップ」の共同開催などを行いました。社会に向けての活動としては、滋賀県議会へ気候危機宣言の請願書を提出し、全会一致で採択された経験を踏まえて、長崎県議会へ請願書を出すサポートなどを行いました。

—今年、滋賀県温暖化防止センターでも、若者とともに考えて主体的な行動を促す事業を始めましたが、まだまだ試行錯誤しているところですか？

**高須さん** (窓の外に目をやりながら)こんなに大きい琵琶湖があって、滋賀にいるからこそ持つことができる環境意識や危機意識と、できることへの希望がいっぱいあるはずなので、それを広げていけばよいと思います。実際に僕が環境学習の出前講座に行ってみて、滋賀の大きな可能性を子どもたちが実感できていないと感じました。「もっと滋賀を都会に」「ショッピングセンターをたくさん建てて」という意見が多く出たのですが、滋賀にはそういう路線ではない所に強みがあることを、今後子どもたちに伝えていきたいです。

—頭ではわかっているけど、より便利、より豊か、より楽しい物を求めてしまう。それは正直な人々の気持ちなのではないでしょうか？

**高須さん** やはり小学校の中高学年から環境教育を、それも月に1回は継続的に行うような機会提供をするべきだと思います。

—卒業後も滋賀をベースにするのですか？

**高須さん** そうですね。大学院で研究するより、僕はどんどん行動を起こしていきたいです。物事を前に進めるためには政治の力がやはり大きいと感じました。東京で高い意識を持っている仲間たちと切磋琢磨するのは刺激的ですが、一方で滋賀でできないこともあるので、滋賀で仲間と進めて行くか、今すごく悩んでいます。地元の愛知も選択肢の一つです。

—気候変動問題を、どのように解決して行くか。もちろん企業のイノベーションや、政治や行政の力も大きいですが、高須さん個人としてはどうお考えですか？

**高須さん** 生活に余裕のない人からすれば環境や気候変動の問題は二の次です。しかし、気候変動は勝手に起きているのではなく、人間の経済活動の結果として起きています。買い物をするときも、環境配慮などいろいろ考えて、消費行動を変えてお金の流れを変える。自分がいいと思ったところにお金が流れるようにする。気候変動は環境だけでなく、経済にも深く関係があり、経済社会活動そのもののあり方が問われているのだと思います。

—最後に、高須さんの趣味は何ですか？

**高須さん** 趣味を聞かれるといつも答えに困るのですが、こういう活動をするんですね。活動できている自分が一番嬉しいし、楽しいです。



琵琶湖岸にてジャンプ！

FFFShiga 制作の  
動画をご覧ください ▶





# 日本 ヨシ紀行

ヨシの風景を訪ねて

## 第10回 きそがわ ながらがわ いびがわ 木曾川・長良川・揖斐川 (三重県桑名市 他)

木曾川・長良川・揖斐川の三河川は、古来より「木曾三川」と呼ばれています。木曾三川の水系は、長野県、岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県の5県にまたがり、濃尾平野を流域に抱えています。

下流域は、昔から洪水の被害に悩まされ、古くから輪中が発達し、同時にさまざまな治水事業が行われてきました。また、上流からの豊富な水量により砂が運ばれた河口部には広大な浅瀬ができ、ヨシ原や干潟が発達しました。そこに桑名名物のハマグリが生息していたり、海苔の養殖が盛んなことでも知られています。

この地のヨシ原は、木曾三川の歴史や文化と深く結びついているほか、さまざまな生き物にとっても、貴重なものとなっています。しかし防災を目的とした護岸工事などによってヨシ原は減少し、現在、地域と行政が連携しながら、ヨシ原の再生事業が進められています。



揖斐川のヨシ原：木曾三川公園付近



地元愛知県弥富市の愛知黎明高校では、平成29年度から国土交通省木曾川下流河川事務所とともに「木曾川下流ヨシ再生事業」に取り組んでいます。令和元年度は、事前学習として「環境保全とヨシ原再生」の出前授業と座談会形式で、ヨシ原をどう再生するかをディスカッションした後、ヨシ苗を採取し、必要箇所への苗の植えつけを実施しました。その後、月1回の定期観察で植えたヨシを見守っています。



愛知黎明高校による  
木曾川下流ヨシ原再生

参加した生徒は、「ヨシはただの植物ではなく生態系のバランスをも変えてしまうほどとても重要な役割をもっていることがわかった。私たちから後輩へ、未来へとつなげられる活動にしたい」と語ってくれたということです。

協力：木曾川下流河川事務所、愛知黎明高校

## 滋賀県 地球温暖化防止 活動推進員 リレートーク



本江 宗明さん  
草津市在住

今回は、「環境関連よろず相談所」の看板を掲げ、全国の企業、大学、自治体等から依頼のあるエース推進員であり、推進員仲間にも親しみやすく深い学びを与えておられるこの方です！

2006年から地球温暖化防止活動推進員、2011年からうちエコ診断士として活動をしています。最近、国、県、市町がネットゼロ宣言を次々されていますが、それに合わせて我々推進員の役割がますます重要になってくるのではないのでしょうか。

コロナ後は、Zoom等を活用して家に居ながらフォーラムや勉強会等に参加でき、最新の情報を入手できるようになりました。出前講座、うちエコ診断では所属するNGO、NPOからの情報も入手して、出来るだけ新鮮な情報を皆様にお届けできるようにしております。

推進員の方々はそれぞれに「得意な分野」をお持ちです。我々推進員が一致団結して、推進センターとともに、まずは2030年の目標クリアが直近の目標です。

組織の若返りも大事だと考えており、「やってみようか」と思うような人が増えるように「発信」していきたいと考えています。



イベントでエコドライブを  
啓発する本江さん

滋賀県地球温暖化防止活動推進員は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、滋賀県知事より委嘱され、普及啓発活動を推進されています。



# タイ総領事・インド総領事・スイス領事が来館されました

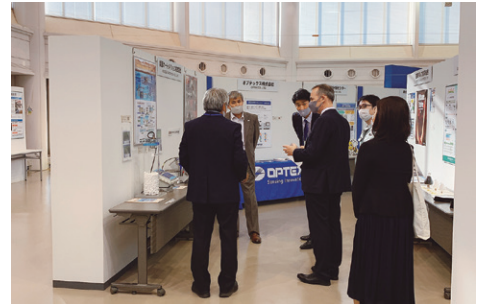
淡海環境プラザでは、水環境技術の海外展開を進めるとともに、海外からの視察を積極的に受け入れています。新型コロナウイルスの影響により海外から直接の受け入れができず、活動が思うように展開できない中、各国の総領事にプラザの技術展示等を視察いただきました。いずれも熱心に説明を聞かれ、企業の担当者や当財団職員に積極的に質問されるなど、日本や滋賀県の水環境技術に関心を深められ、高い評価のお言葉をいただきました。



オペテックス株の水質測定キットの説明を受けられるタイ総領事



株日吉の技術とその展開について説明を聞かれるインド総領事



関西オートメーション株の技術展示の説明を受けられるスイス領事



Ky Thuong 小中学校にて

クアンニン省の環境保護基金が主催するゴミ分別の啓発事業に参加するため、ハロン市山間部の学校を訪問しました。山道を1時間以上走り続けるとやがて民家や商店もなくなり、人影もない山奥に入りました。さらに30分、こんなところに学校などあるはずもなく、きっと道を間違えたのだと思いはじめたころ、立派な建物が見えてきました。ここは少数民族の子どもたちが寮生活をしながら学ぶ、小中学校です。

ベトナムでは一般的に家庭や事業所で日本のようにゴミの分別はできていません。以前訪問したゴミ処理施設では、スタッフがリサイクル（販売）できるものと焼却するものに分別しており、その分コストがかかるとのことでした。周りにコンビニもなく、都会のようにプラゴミに囲まれることのない子どもたちにプラゴミの環境への影響やゴミの分別について説明したのですが、みんな真剣な表情で聞いてくれました。子どもたちの意識の変化が、やがて社会を変えていくことを期待しています。

JICA（国際協力機構）の専門家「グリーン成長政策アドバイザー」の活動を紹介します。

淡海環境  
プラザで

## しが環境キャラバン 木育ワンダーパークが開催されました

木とのふれあいを通じて、森林の重要性や木を使うことへの理解を幅広い世代に深めてもらう、「木育」の推進の一環として、11月20日（土）、21日（日）の両日、淡海環境プラザにおいて、県と滋賀県木材協会の共催イベント「しが環境キャラバン 木育ワンダーパーク」が開催されました。いつもは静かなプラザの屋内外に、木製遊具や展示物がいくつも設置され、遊び体験や木育ワークショップ、木工作品の展示販売など、約30ものブースが並びました。

密を避け、コロナ対策に十分配慮しながらも、この両日で2,226名もの来場があり、屋内も屋外も大にぎわい。当財団はヨシネックレズづくりと水草たい肥のPR、「うちエコ診断」とエコ工作のコーナーを設け、また、隣接する湖南中部浄化センターの見学ツアーなど、財団として一丸となってこのイベントに出展参加し、訪れた皆さんに環境についても学んでいただくことができました。





# 募集・おしらせ

※詳しくは財団HPをご覧ください。

## 第12期滋賀県地球温暖化防止活動推進員の募集

令和4年  
2月21日  
まで

滋賀県では、家庭・地域におけるCO<sub>2</sub> ネットゼロ（2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにすること）の取組を広げるため、ボランティアとして県内で普及啓発活動に取り組んでいただく推進員を募集しています。



**委嘱期間** 令和4年4月1日～令和6年3月31日（2年間）

## 滋賀県環境審議会委員の募集

令和4年  
3月16日  
まで

滋賀県では、環境の保全に関する基本的事項や重要事項について、滋賀県環境審議会において審議していただく委員を募集しています。

**委嘱期間** 令和4年6月1日～令和6年5月31日（2年間）

応募方法等詳細は滋賀県ホームページをご覧ください！

## ご寄附をいただきました

高麻株式会社様は昨夏、「琵琶湖のヨシでサステイナブルな湖国の新たな特産品を作るプロジェクト」というクラウドファンディングを実施されました。その調達額の一部を「琵琶湖のヨシ原の保全活動基金」とご寄附いただきました。



三和産業株式会社様は、湖南市にある、ガードレール等の基礎ブロックなど、社会の安全安心を守るコンクリート会社で、自然環境や生物多様性の保全にも熱心に取り組まれています。今年も公益目的事業全般にご寄附いただきました。



財団では、財団の事業活動に賛同される皆様からのご寄附および賛助会員を募っています。詳しくは財団HPをご覧ください。お電話でお問い合わせください。

## マンホールカード8,000枚配布！

滋賀県流域下水道「マンホールカード」の配布数が、昨年11月5日に8,000枚に達しました。

8,000枚目をGETされた愛知県からお越しの井上さんに、記念品として当財団のヨシ製品のセットを贈呈しました。ご来館ありがとうございました。



## イベント情報

2022年 1月～2月



イベント名	開催日	時間	場所	内容
2021年度地球温暖化防止「COOL CHOICE」啓発ポスター入賞作品展	1/5(水) 1/12(水)	10:00 18:00	エイスクエア SARA東館2階 エイプレイス	滋賀県内の小中高生を対象に募集した「COOL CHOICE」啓発ポスター応募総数404作品の中から選ばれた12作品を展示します。
中小事業者のための脱炭素経営に関する個別相談会	1/14(金)	13:30 16:00	コラボしが21	県内の中小事業者様の脱炭素経営を促進するために、取組上の課題やお悩みに対して専門家による個別相談会を開催します。
草津ヨシ松明まつり実行委員会ヨシ刈り	1/15(土)	10:00 12:00	草津市下物町	ボランティアの皆様のご協力を得て、この刈り取ったヨシを使い、翌年「草津ヨシ松明まつり」を実施してまいります。 【主催：草津ヨシ松明まつり実行委員会】
「琵琶湖サポーターズ・ネットワーク」第2回交流フォーラム ～知って！つながる！琵琶湖版SDGs「マザーレイクゴールズ(MLGs)」～	1/24(月)	14:30 16:30	滋賀県庁 東館7階 大会議室	さまざまな形で「琵琶湖に関わる人」を増やすとともに、多様な主体間の連携や協働を進めることで、琵琶湖を「守る」と「活かす」ことの好循環の推進をめざして発足した組織・団体間のネットワークの、交流の場として開催されます。 【主催：滋賀県】
令和3年度ラムサールびわっこ大使事業 びわっこ大使世代間交流会	1/29(土)	13:30 16:00	琵琶湖博物館	琵琶湖の環境を学び、県外派遣を終えた今年度のラムサールびわっこ大使と、過去にびわっこ大使として活動した卒業生との交流会を行います。
令和3年度「関西広域連合地球温暖化防止活動推進員・推進センター関西合同研修会」	2/2(水)	14:00 17:00	オンライン開催	関西広域6府県の推進員・温暖化防止センターを対象に、府県を超えた交流・意見交換・優良活動事例を共有し、脱炭素型社会に向けた新たな活動の横展開と活動の活性化を図ります。今年度は地域の脱炭素化と再エネ導入の重要性を学びます。

## 公益財団法人 淡海環境保全財団 「明日の淡海」

発行 公益財団法人 淡海環境保全財団

VOL.36 2022年1月発行  
(年4回発行)

〒525-0066 滋賀県草津市矢橋町2108番地  
TEL:077-569-5301 FAX:077-569-5304 E-mail:info@ohmi.or.jp

【滋賀県地球温暖化防止活動推進センター】  
TEL:077-569-5301 FAX:077-569-5304 E-mail:ondanka@ohmi.or.jp

【淡海環境プラザ】  
TEL:077-569-5306 FAX:077-569-5334 E-mail:plaza@ohmi.or.jp



- 用紙：適切に管理された森林の木材を利用したFSC®認証用紙
- インキ：環境配慮型インキ(植物油インキ or ノンVOCインキ)
- 印刷：有害な廃液を排出しない水なし印刷

### 編集後記

各国が一丸となるにはその影響や利害得失があまりにも異なる気候変動問題。コロナによる延期等もあり、COP26議長の内苦しいばかりだったか。お人柄が伺える報道に、もらい泣き寸前でしたが、そんなことを言っている場合ではなく、温暖化対策はもう「待たなし」です。